

# 広報 UNOYORO

第 78 号

発行所 黒埼町役場  
印刷所 共立印刷株式会社

## 《町の動き》

7月末日現在 (前月比)	
人口	18,629(+9)
男	9,132(+3)
女	9,497(+6)
世帯	4,479(-2)
6月1日～末日	
死亡	7
出生	41
婚姻	39



八月九日、太平興業前(国道8号線)で例年のように交通指導所

を設け、本町児童が運転者に、事故を起さないよう元気で仕事に励んで下さいと小さな願いを託したハガキ数千枚を、交通指導隊、交通安全母の会などの人たちが、指

## 交通安全

### 子どもの小さな願い

事故絶滅を期し「ハガキ」作戦

導所を通る運転者一人一人に、子どもの願いを聞いてあげて下さいと一枚づつ、同時に冷たい紙タオルをサービス・運転手も突然の好意に顔をなごませ額の汗をふきふき、また天下に車を走らせていった。

## 夏の味覚

### 「茶豆」の紹介

連日30℃を越す暑さが続き各家庭では一日の汗流しとして、夕食時の冷しビールそのつまみとして枝豆が食膳にお目見えすることでしょう。

水銀計の上昇とビールの売れ行きそれに比例して枝豆の需要が増えるという暑さがもたらす置きみやげ、枝豆の出まわりは露地もので七月中旬から九月中旬頃まで続く味の王様は七月下旬から八月中旬過ぎまで出まわる茶豆である。この頃になりますと新潟中央青果市場等では本町から出荷される赤札付きの茶豆が多い時には出荷量の半分以上を占め年々栽培面積が増え続けています。

本年の枝豆の推定作付面積は本町では約三十八ヘクタールで、うち稲作転換で十七ヘクタール、茶豆だけの面積は自家用を含め約二十ヘクタール、市場等へ出荷される量は「黒埼茶豆」「小平方茶豆」で十五万束程度で大手は新潟市場へ出荷され、近年は味と香を売ものに需要に対応できる産体制へ入っている。去る七月三十一日茶豆求評会が開かれ、指導機関、市場、消費者、生産者が集まり味と香りについて試食しました。作柄も良好で厳選された茶豆種子を確保して栽培しているため味と香りについては非常に好評を得ました。今後は需要に対応できるための生産体制の整備を行うことが急務であり、生産者の努力と流通関係の研究により安く消費者へ届くことが求評会の課題のようでした。